

理容所構造設備基準

床・腰板（理規 26-1-1）

不浸透性の材料（例：コンクリート、タイル、板等）

客待ちと作業室の区画（理条 3-1-3）

作業室に作業中の客以外をみだりに出入りさせないこと（固定でき、またげない高さのついで等が望ましい）

作業室面積・椅子台数（理条 3-1-1、理条 3-1-2）

最低必要作業室面積は 13 m²（椅子は 3 台まで）、1 台増えるごとに 4.9 m² 追加が必要

採光・照明・換気（理法 12-1-3）

充分にすることができる設備

器具・布片（タオル）

（理条 3-1-5）

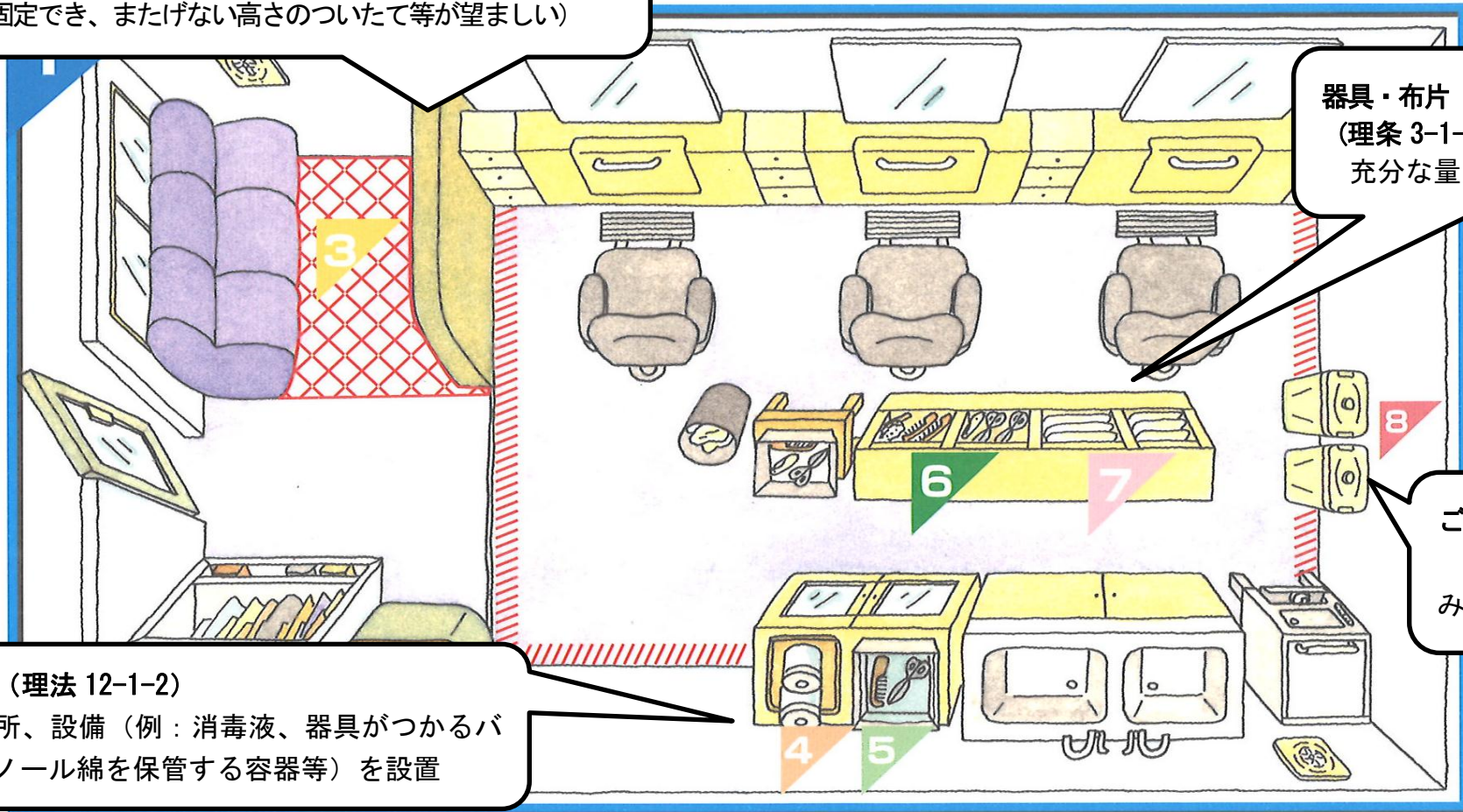
充分な量（格納棚の設置）

消毒設備（理法 12-1-2）

専用の場所、設備（例：消毒液、器具がつかるバット、エタノール綿を保管する容器等）を設置

ごみ箱（理規 26-1-3）

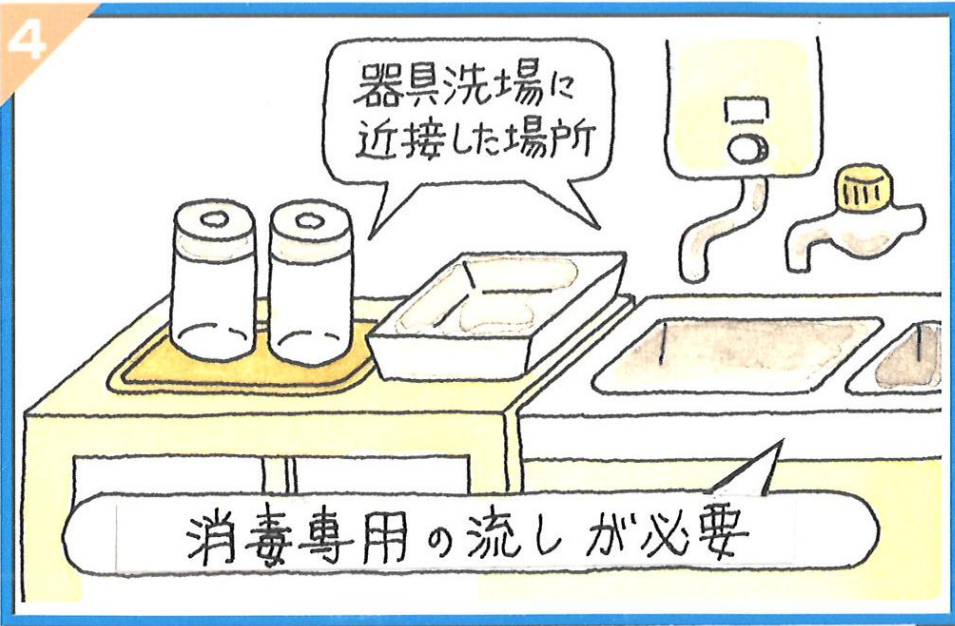
ふた付き汚物（ごみ）箱と毛髪箱を用意



//// //// 内は作業室（内のりで面積計算）

XXXX 内は客待ち場所

4



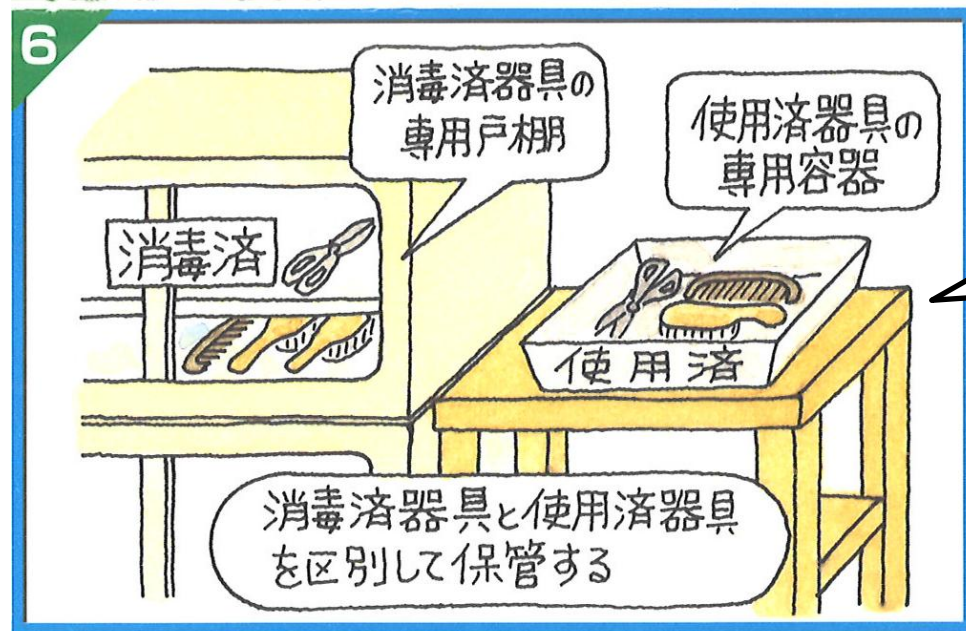
洗場（理条 3-1-6 及び 7）

手指及び器具用の流水設備*。

洗髪を行う場合は別に流水式洗髪器を設置。

* 流水設備は水道法（昭和 32 年法律第 177 号）
第 3 条第 1 項に規定する水道（規則で定める
水道に限る。）から給水され、下水道法（昭和
33 年法律第 79 号）第 2 条第 3 項に規定する
公共下水道又は浄化槽に排水される構造。

6



消毒済器具（理条 3-1-4）

容器を設置（格納戸棚又は密閉容器等）

未消毒器具（理条 3-1-4）

容器を設置

根拠法令等

理容師法（法）

大田区理容師法施行条例（条）

大田区理容師法施行規則（区規）